

【位置づけ】

- ✓ 新たな世界目標「**昆明・モンリオール生物多様性枠組**」に対応した戦略
- ✓ 2030年**ネイチャーポジティブ**を目指し、**生物多様性・自然資本（＝地球の持続可能性の土台・人間の安全保障の根幹）**を守り**活用**するための戦略

【ポイント】

- ✓ 生物多様性損失と気候危機の「**2つの危機**」への**統合的対応**、新型コロナウイルス感染症のパンデミックという危機を踏まえた**社会の根本的変革**を強調
- ✓ **30by30目標**の達成等の取組により**健全な生態系**を確保し、生態系による恵みを維持回復
- ✓ **自然資本を守り活かす社会経済活動**（自然や生態系への配慮や評価が組み込まれ、ネイチャーポジティブ（自然再興）の駆動力となる取組）の推進

生物多様性国家戦略2023-2030（案）の骨格



「2050年自然共生社会」「2030年ネイチャーポジティブ」の実現に向け、5つの基本戦略、基本戦略ごとの状態目標（あるべき姿）・行動目標（なすべき行動）、個別施策を各行動目標に紐づけることで、**戦略全体を一気通貫**で整理するとともに、進捗状況を効果的に管理

第1部 戦略

2050年ビジョン『自然と共生する社会』

2030年に向けた目標：ネイチャーポジティブ（自然再興）の実現

基本戦略

状態目標

行動目標

関連施策

基本戦略1
生態系の健全性の回復

状態目標（3つ）
・生態系の規模と質の増加
・種レベルでの絶滅リスク低減
・遺伝的多様性の維持

行動目標（6つ）
・30by30
・自然再生
・汚染、外来種対策
・希少種保全
等

基本戦略2
自然を活用した社会課題の解決（NbS）

状態目標（3つ）
・生態系サービス向上
・気候変動とのシナジー・トレードオフ緩和
・鳥獣被害の緩和

行動目標（5つ）
・自然活用地域づくり
・再生可能エネルギー導入における配慮
・鳥獣との軋轢緩和
等

基本戦略3
ネイチャーポジティブ経済の実現

状態目標（3つ）
・ESG投融资推進
・事業活動による生物多様性への配慮
・持続可能な農林水産業の拡大

行動目標（4つ）
・企業による情報開示等の促進
・技術・サービス支援
・有機農業の推進
等

基本戦略4
生活・消費活動における生物多様性の価値の認識と行動

状態目標（3つ）
・価値観形成
・消費活動における配慮
・保全活動への参加

行動目標（5つ）
・環境教育の推進
・ふれあい機会の増加
・行動変容
・食品ロス半減
等

基本戦略5
生物多様性に係る取組を支える基盤整備と国際連携の推進

状態目標（3つ）
・データ利活用・様々な主体の連携促進
・資金ギャップの改善
・途上国の能力構築等の推進

行動目標（5つ）
・基礎調査・モニタリング
・データ・ツールの提供
・計画策定支援
・国際協力
等

第2部 行動計画

5つの基本戦略の下に25ある**行動目標**ごとに、関係省庁の**関連する施策**を掲載

関連施策からビジョンまで一気通貫で整理

現行戦略との比較

生物多様性国家戦略2012-2020

第1部

生物多様性の重要性

4つの危機、5つの課題、基本的な考え方、長期目標、短期目標

国土のグランドデザイン

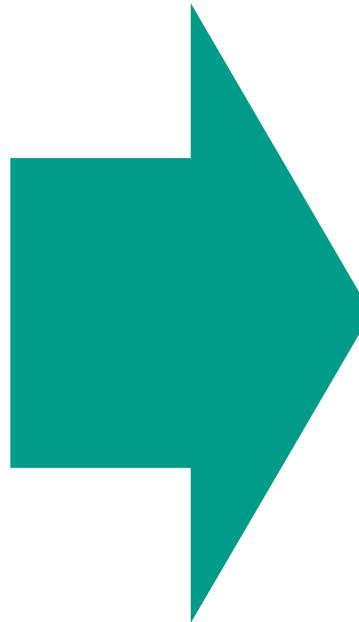
第2部

愛知目標達成に向けた国別目標
主要行動目標、指標

第3部

国土空間的施策
横断的・基盤的施策
東日本大震災からの復興・再生
(約700施策、50の数値目標)

本体の分量削減
関係性の明確化



施策の整理統合
目標との関係整理

基礎的情報は
本文と別枠で記載

生物多様性国家戦略2023-2030 (案)

第1部

世界と日本の現状

↓
4つの危機と危機の背景

↓
長期目標・短期目標

↓
目標達成のための基本戦略と
それに紐づく状態・行動目標

↓
実施に向けた考え方

点検・評価、各主体の役割

第2部

行動目標ごとに施策を整理
(約370施策、249の数値目標)

附属書

30by30ロードマップ、生物多様性の
重要性、国土のグランドデザイン

生物多様性国家戦略2023-2030（案）の点検・評価



昆明・モンリオール生物多様性枠組のレビューメカニズムを踏まえ、生物多様性国家戦略2023-2030（案）では、以下のとおり対応

- ✓ 国別目標である「状態目標・行動目標」の達成状況を測る指標を設定
- ✓ 指標や関連施策の定期的な点検（2年に1度を基本）や本戦略の評価を実施
- ✓ 必要に応じて指標や関連施策の更新や追加等の見直しを実施

国際の点検・評価のイメージ

